

# コロナ 多岐の論戦

新型コロナウイルス対策などをテーマに2日、衆院予算委員会で集中審議が開かれ、岸田文雄首相が施政方針演説で掲げた「最悪の事態を想定した万全の体制」が問われた。論戦は、ワクチン3回目接種への対応や緊急事態宣言、水際対策の見直しにも及んだ。

## 3回目接種 「加速の姿勢 早く拡大を」

## 「大規模会場 1日5千回に」

3回目接種をめぐっては、菅政権でコロナ対応を担った自民党の西村康稔氏が自衛隊の大規模接種について「3回目を加速する政府の強い姿勢を示すために、1日でも早く規模を拡大すべきだ」と取り上げた。

首相は、東京会場の接種種について「来週には1日あたりの接種回数を5千回程度まで拡大したい」と表明。東京会場は現在1日あたり720人で、7日から2160人に拡大する予定だったが、政府は8

日に約4千人、10日に約5千人へと引き上げ、予約殺到の状況に対応する考えだ。

3回目接種の遅れについては与野党から懸念する声があがった。政府は1月末までの医療従事者の接種対象を576万人としていたが、堀内昭子ワクチン担当相は1日公表した3回目の総接種数約450万回のうち、医療従

## 緊急事態宣言 「検討すらしないのか」

## 「しっかりと把握し考えたい」

「従来なら緊急事態宣言を出すに出している局面だ。今回は検討すらしないのか」立憲の長妻昭氏は、1日の死者数が全国で70人になったことをあげ、昨夏の「第5波」での1日あたり最多死者数89人に迫っていると指摘し、宣言を出すことに慎重な姿勢を崩さない首相をたじた。

## 水際対策 「国内で拡大 続ける意味は」

## 「必要・適正 絶えず考える」

国内の感染拡大が止まらないなか、首相が「G7で最も厳しい水準」と誇る水際対策にも注文がついた。政府は2月末まで、原則として外国人の入国を認め

「必要・適正 絶えず考える」という考えを強調した。入国してきたいない海外留學生の早期受け入れを求められても、「人道と、国益上の観点から個別の事情を慎重に勘案し、必要な防疫措置を講じた上で入国を認めてきた」とし、今後については「適切な対応を絶えず考えていきたい」と抽象的な答弁に終結した。

(機部佳孝、中田柳子)



衆院予算委の集中審議で、質問する立憲民主党の長妻昭氏(左)と答弁する山際大志郎経済再生担当相(中央)。右は岸田文雄首相=2日午前11時22分、国会内、上田幸一撮影